

第2回 出雲市観光戦略会議

1. 開催日時

令和6年(2024)8月23日(金) 15時00分から17時30分

2. 開催場所

ラピタウエディングパレス 天雅(出雲市今市町)

3. 会議の出席者

(1) 委員(15名)

会長	田邊 達也	(一社)出雲観光協会 会長)
副会長	錦田 剛志	(万九千社 宮司)
委員	今岡 真澄	(富士酒造合資会社 常務)
	多々納 真	(株)出西窯 代表取締役)
	福岡 正純	(出雲市商工団体協議会 会長(出雲商工会議所 会頭))
	石飛 硯一郎	((有)小田温泉 代表取締役)
	石原 稔功	(出雲ホテル連絡協議会 会長)
	平井 敦子	((一社)木綿街道振興会 専務理事)
	三島 貴子	(NPO法人スサノオの風 事務局長)
	森 正幸	(株)島根ワイナリー 常務取締役)
	渡部 稔	((有)出雲観光タクシー 代表取締役・出雲インバウンド 事業推進協議会 会長)
	児玉 俊雄	(出雲市議会 副議長・環境経済委員会 委員長)
	湯浅 啓史	(出雲市議会 観光戦略推進特別委員会 委員長)
	錦織 宏	(出雲市自治会連合会 会長)
	青戸 崇年	(島根県観光振興課 国際観光推進室 室長)

※欠席者(3名) 川谷 誠一委員、藤江 美由紀委員、野津 昌巳委員

(2) アドバイザー

刀根 浩志 (出雲市観光特別顧問)

(3) 出雲市

井上 夏穂里	(副市長)
神田 圭子	(観光交流部長)
原 哲也	(観光課長)
水 良弘	(観光課主査)
原 育也	(観光課観光政策係長)
濱崎 洋光	(観光課観光振興係長)
高橋 達充	(観光課観光政策係副主任)
立花 祐樹	(観光課観光政策係主事)
岩崎 和人	(インバウンド推進課長)
清水 あゆこ	(インバウンド推進課長補佐)

(4) 出雲観光協会

稲根	克也	(事務局長)
斎藤	謙一	(事務局次長)
古島	尚	(総務係長)

4. 次第

1 開会

2 副市長あいさつ

3 会長あいさつ

4 議事

(1) 出雲市の今後の観光振興に向けた戦略と体制について

株式会社Intheory 代表取締役

一橋大学MBAホスピタリティマネジメント非常勤講師

村木 智裕氏

(2) 出雲市の観光推進体制について

資料1

(3) 観光基本計画の全体像、課題のとりまとめ案について

資料2

5 その他

6 閉会

5. 会議内容

1. 開会

事務局

ご案内しました時間となりましたので、ただいまから、第2回出雲市観光戦略会議を始めます。

本日は、大変お忙しいところご出席いただき、誠にありがとうございます。

本日の出席につきましては、時間の都合上、お手元に配付しております、名簿をもって代えさせていただきます。

本日の会議は原則公開で開催いたします。資料及び議事録は会議終了後、市のホームページ等に掲載しますのでご承知おきください。

2. 副市長あいさつ

事務局

開会にあたり、副市長から挨拶いたします。

副市長

失礼いたします。

本日は大変お忙しいところお時間をいただきまして、誠にありがとうございます。

第1回の会議におきましては、わが国ですとか出雲市の観光動向などを説明させていただきました。委員の皆様方には、お忙しい中、事前提出の意見を含めまして、当日も多くのご意見や課題を挙げていただいたと認識しております。この課題を改善して前に進んでいくためには体制面の強化が必要と認識しております。

そこで、本日の前半については、議事次第の(1)と(2)の部分につきましては、新たな観光経営組織のモデルであるDMOにつきまして、有識者の村木様からご説明をいただこうと考えております。そのうえで、出雲市の観光推進体制の現状と課題の説明をさせていただきます。その後、皆様方に、出雲市としてDMO構築の検討を行うことを提案させていただきたいと考えております。

後半の議事(3)におきましては、観光基本計画の全体像を説明させていただいた上で、目指す地域の将来像や課題の取りまとめ案についてご確認いただきたいと思いますと考えております。

なお、前回多くのご意見があったインバウンドにつきましては、取り組みの骨子を整理している最中ですので、次回以降に説明、ご意見いただければと思っております。よろしく願いいたします。

3. 会長あいさつ

事務局

続いて、委員を代表いたしまして会長に一言ご挨拶をお願いいたします。

会長

失礼いたします。

前回の会は6月6日にこの場で行いました。その後、7月9日に観光の大きなポイントでございます日御碕の方で、豪雨のため被害が出まして、一か月が過ぎますけれども、まだ観光客が来ることができないという非常に厳しい状況の中で、私達が頑張っていくということを、問題を申し上げながらご報告申し上げたいと思います。

そうしますと、本日は大変お忙しい中、第2回観光戦略会議にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

また、本日は委員の中で議会からお出かけいただいておりますけれども、その委員以外にも市議会の皆さんが何人も傍聴としてお越しいただいておりますことを感謝申しあげたいと思います。また、アドバイザーにも今回もお越しいただきましたことを御礼申しあげたいと思います。

前回の会議では、多くの質問、ご意見あるいはご提案をいただきまして、本市の観光の更なる活性化の方向性を共有することができたように思います。その中でも、観光は地域経済において成長産業であり、非常に重要な役割を果たしており、今後、懸念されます少子高齢化、人口減少対策としても最も有効な手段の一つであると、委員の皆様とともに共有したところでございます。そうした認識の上に立って、それを今後具体的に、そして継続的に進めていくことが、最大の課題であります。2回目の今回はそういったことが趣旨になると思います。

そこで、出雲の観光の起点を決め、それを進めていくうえで、目まぐるしく変化する社会情勢、多様性を求められる社会に対応するには、強い基盤を持ち、柔軟でスピーディな活動ができる新しい組織を模索するべき時期に来ていると考えます。先ほど副市長からもありましたように、DMOに対する見識の深い講師にお越しいただきまして、その方向性をお話いただきたいと思います。思っております。

また、今日はこの後、折角のご縁で皆様と集まる懇親会・交流会を設けておりますので、少し長い時間にはなりますけれども、どうぞ有意義な時間になりますことを申しあげまして、最初のご挨拶とさせていただきます。本日は大変ありがとうございます。

事務局

会長、ありがとうございました。

議事に入ります前に、次回以降も含めた、今後の戦略会議の進め方・スケジュールについて、予定をご説明いたします。

本日の会議では、観光基本計画のうち、目指す地域の将来像や、計画の肝となる組織強化の方向性、課題のとりまとめ案などについてご意見をいただきます。

次回 11 月 7 日でございますが、第 3 回会議では、本日の協議結果を踏まえて、将来像を実現するための戦略の内容や KPI の案をお示しいたします。また、文章化した計画全体の素案をお示ししたいと考えております。

第 3 回会議でのご意見を踏まえた調整の後、市議会に説明するとともに、12 月頃からパブリックコメントにより、広く市民の皆様の意見を伺い、必要な調整を行ってまいります。

その結果を最終調整案として第 4 回会議、年明け 1 月 29 日に提示させていただき、計画案の了承をいただけるよう進めていきたいと考えております。

4. 議事

事務局

それでは、議事に移らせていただきます。

ここからの進行は、会長をお願いいたします。

(1) 出雲市の今後の観光振興に向けた戦略体制について

会長

それでは、よろしくお願い申し上げます。早速でございますけれども、議事に入ります。

まず、出雲市の今後の観光振興に向けた戦略と体制について、本日お招きいたしました講師より、新たな観光牽引組織のモデルである DMO について講演をいただきます。次第裏面を参照いただきご紹介に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

講師

(講演「出雲市の今後の観光振興に向けた戦略と体制について」)

会長

ありがとうございました。まだまだ聞きたいところではございますけれども、関連しまして、ここでご質問等もあらうと思っておりますけれども、この後の(2)の出雲市の観光推進体制について、資料 1 も含めまして、説明をしますのです、その後、合わせましてご質問、ご意見いただければと思います。それでは、よろしくお願いいたします。

(2) 出雲市の観光推進体制について

事務局

(資料 1 について説明)

会長

ありがとうございました。そうしますと、先ほどの講師、それから、事務局も合わせて質問をいただきたいと申し上げておりましたけれども、非常にボリュームもありましたので、副会長の方から、さすがに全国で年間数十回も講演をなさって、聞く立場を見てい

らっしゃって、ここで休憩をしてはどうかと提案いただきました。10 分間ほど休憩をいたしまして、その間に、お二人の説明を整理して、ぜひとも意見を出していただきたいと思います。

45 分まで休憩とします。

—休憩—

会長

そうしますと、時間になりました。17 時 30 分が終了予定となっておりますので、それに従っていききたいと思います。

先ほど申し上げたように講師にお話しいただきまして、また、事務局から説明をいただきました。それにつきまして、大体、最初手を挙げられませんが、話始められると、非常に話されますので、1 分くらいを目途にご質問・ご意見いただければと思います。

A 委員

前回出席できず、初めての方もおられるのでよろしくお願いします。講師の先生ありがとうございました。非常に簡潔にして要を得た説明で、そのうえで、サステナブルに対する意識が高まっている中で、出雲の力・魅力を発揮するためには、出雲がその先駆けになるべきと、直感的に思いました。先駆けになるためには十分な要素がこの地域にあると思っています。私は、歴史・文化が専門ですが、「出雲」がはじまりのものを調べるといくつか出てきます。例えば、日本酒、宴会、お箸、和歌のはじまりでもある。もっと言えば、少し考古学的な話になりますが青銅器の走りであったり。考えてみると、この出雲地域というのは、歴史的に見ても非常に先駆けを演じてきた地域でもあるんです。それを再認識することで、大いにこの観光戦略を活気づける、現代にない知識を補える、有効に活用できる地域ではないだろうか。手前味噌ですが、改めて出雲の力を再認識し、先生の話聞いてやればできるなと思いました。それが、率直な感想でございます。

商品力・価格・プロモーションの中で、旅行者が楽しめるのは、何気ない日常の中だったり、あるいは自然の中であったり、お祭りなどの行事であったり、今日の先生の話の中にはなかったですが、素朴な人柄。なかなか表現しにくいですが、出雲の人は、最初は人見知りなところもあるんですけど、1 回受け入れたら、とことん親身になって、相手の立場に近づいてものを言うなど、「出雲人」の良さがきっとまだ生きていると思います。最初は遠慮がちですが、話すと相手の立場も慮ったような、高い精神性も「出雲人」にはあるなと思います。人情ですね。受け入れる人々の心構えが大事だった次第でございます。

まずは、先生のお話をお伺いした感想です。

講師

参考になる事例があるので、ご紹介します。

私に関わっているものですが、国が観光立国推進閣僚会議といって、国の観光施策を考えるトップの会議ですけども。そこで、4月に会議が開かれた時の様子なんですけど、国としてこの2つに重点、力を置いてやっていきますということです。

1つはオーバーツーリズムをこれ以上発生させないための対策を打ちますというのと、裏返しなんですけど、地方にもっと人が呼び込める環境をつくります。それを11か所指定して国と地方が一緒になってやる。確か、山陰もありました。この11か所で、私は瀬戸内をやっていました。

今現在、紀伊半島と伊勢志摩と那須を私のところでやっています。色々なところで関わっているので、その1つの事例である紀伊半島です。ここ、実は、副会長がおっしゃっていただいたようなコンセプトでやっています。似たような絵があると思いますが、こんな見せ方をしているんですよ。

紀伊半島って、皆さんご存知の通り、世界遺産、国宝の宝庫なのですが、なぜそういう場所になったのかというと、そういうルーツを探って、それを1つのストーリーにして、1つ世界に発信をする核となるものにしようということです。いわゆる自然崇拜、神道の起源といわれたものなので、それが、なぜこの地域で自然崇拜がこのように発展してきたのかということの、さらにその先、その前です。つまり、それだけ自然を脅威や畏敬の念をもって捉えるようになったのはなぜか、というところまで遡って、まさにこれが日本人の精神・ismとなり、日本という国の生まれたはじまりの地だというような視点で、整理をしたものです。

実はこういうテーマで去年から動き始めていまして、何が言いたいかというと、紀伊半島をフランスのメディアに紹介して、大きく取り上げてもらうことが今回できたんですよ。その時、出雲にも関わらせていただいていたので、出雲も併せてどうかと紹介したら、出雲もまさにそういう場所だよねというので、これ大きな特集なんですけど、出雲と紀伊半島の高野山を合わせた記事になって、フランスで紹介されたんです。まさにお願いしていただいたような視点が刺さったケースなのかなと思います。

たまたま、今回私が直接ここに来るので、フランスから媒体を取り寄せてもらって、今日持ってきたんですけど、まさに言われたような視点が刺さった結果だと思っているので、そのご指摘で非常に共感いただいてよかったと思いました。

これ後ほどご覧いただければと思います。

A 委員

ありがとうございます。

少し具体的な話ですけども、先生のお話をお聞きして、先進性などを発揮していくうえにおいて、今の出雲市の観光推進体制では遅れを見ることは間違いないだろうと実は思っております。これは、県のアドバイザーさせてもらったり、市の観光協会に長らく関わらせて頂いた中で、これまでお仕事に励んでこられた方に対して、誹謗中傷する気は全くないんですけども、もう行き止まり感が見えているというのを常に感じております。それはまさに、縦割り行政の悪い部分がすべて出ているからです。

じゃあ、民間の人はどうなのかというと、「わが業者、わが業者」で、自分たちの利益誘導の話ばかりされる人がある。気づいたら観光協会は何をやっているのかというと、利害関係の調整役に回っている。それでは、有効な施策を打つことはできないと思っております。

それで、講師のお話を聞いて、先駆けとして出雲地方からぜひともDMO方式を採用して、縦横無尽に、柔軟性をもって、観光戦略を発揮する組織づくりが必要だろうと思った次第であります。

そういう意味において、景観行政とのリンク、それから文化財行政すなわち歴史文化の行政、そして交通、道路ですね。結局、「こういう地域づくりをする」という強いリーダーシップを専門性の下で発揮しない限りは、観光戦略といういくら素晴らしい絵を描いたとしても、実現不可能だと思います。

確たる財源と人的資源の確保を、我々の世代がぜひとも官民挙げてつくらないといけない。決して現在の観光協会がいけないとかそういう意味ではなくてですね、前に向かって、これから先の出雲全体の発展を考える上では、観光行政しかないとは思っているので、大変生意気ですけれども、ぜひ力強い行政のリーダーシップでDMOを進めていただきたいし、賛同を得られるのであれば、多くの官民挙げて前向きに、短期決戦で、先駆けで行けるように、私は推進すべきと思います。

講師

私の方から参考になる資料をお見せしてもよろしいですか。これは、DMO組織をサポートする、指導する組織からいただいた話です。D I（ディスティネーション・インターナショナル）というアメリカに本部がある組織なんですが、日本の方でも、ここのサポートを得ながらDMOの指導を国やもしくは関係団体がしています。

そこが、DMOを評価するときの指標をこのように設けております。まずは、観光地としての魅力度がきちんと上がってきているかどうかとか、実績ですね。実績がその指標になっています。もう1つ、右側ですね。地域全体が観光振興に積極的に、主体的に関わるような体制になってるかどうかというのを見るようになっています。

出雲についてどうかというと、実績については、出雲は国内で最もよく知られた観光地の一つだと思いますから、そして、ここ近年、10年、宿泊施設も本当に充実してきて、観光資源が溢れていて、航空アクセスがいいとか、非常に魅力度としては高い評価を受けるはずだと思います。

一方、これをより発展させていく。地域にもっと波及効果を出していくためには、このあたりの要素が必要だろうということを副会長が発言されたと思うんですが、もう少し詳しく書いたものがこちらです。

もちろんこれ、行政における優先度、観光関連政策の充実度が非常に重要だと位置付けられています。一方ではこちら、地域産業の支援とか地域社会の支援、DMOを支える主体の人たちの結束度みたいなものです。こういったものも非常に重要だと言っているんです。

これが、鶏の卵の話になるんですが、おそらく同時にやっていくもので、どちらか一方がドーンと上がったら、こちらもついていくというものではなく、徐々に一緒にステップ・バイ・ステップで上がっていくものかなと思います。

なので、ぜひこの地域の様々な、主要なステークホルダーの皆さんがいらっしゃるはずですから、その人たちと行政が核になる動きを作り出して、周りの人たちを巻き込んでいき、ゆくゆくは住民の人たちにとっても観光大事だよねという、空気を作り出していく。こういうことが必要なのかなと思います。重要な視点だと思います。

会長

どうもありがとうございました。そうしますと、時間の関係で、こちらの方からちょっと指名をさせていただきまして恐縮ですけれども、今日はですね、議会の方からもお越しいただきまして、特に副議長もお越しですけれども、特別委員会を立ち上げたところでして、B委員、短めに1つどうぞ。

B委員

ありがとうございます。強力な専門的な組織が必要だという点は私たちも理解、認識して議論しているところです。それにも、評価を兼ねる情報が必要だというお話をいただき、資料の中に宿泊税とか、あるいは、T I Dでしょうか。これがよくわからなくて、日本国内ではどういう事例があるのでしょうか。

講師

宿泊税は比較的、まだ6個、7個くらい、導入地域が入ってきています。皆さんもなんとなく頭の中にある制度があると思うんですけども、一見似たような制度です。

T I Dは何をやるのかというと、Tourism Improvement District といい、一定の区域を指定して、その区域内のツーリズムとしての価値を高めていくことを進めていくための仕組みとか、そういう意味合いです。

元々、B I Dがもとになります。Business Improvement District というものだったんですが、これも同じような発想で、一定の地域のエリアを定めて、そこで経済的な価値を高めていきたいと思いますという、アメリカの方でまちづくりの制度として、今から30年ほど前ぐらいに徐々に普及していったものなんですね。

なので、例えばアメリカで知ってる場所で、タイムズスクエアとか皆さんご存じかと思いますが、あのタイムズスクエアは、なぜこれほど日本人にとって観光に行ったらニューヨーク、マンハッタンに行ったら、タイムズスクエアに行くようになったのかというと、B I Dができていて、B I Dとして活動した結果、広くたくさんの情報が色々なところに伝わって、日本人にも馴染みのある場所になった。そういうまちづくりをしていくための制度です。

それを、ツーリズムの世界に応用したのが、T I Dになります。

日本では、日本版T I Dとして、地域再生エリアマネジメント負担金制度として、平成30年に法制化されて、日本の基礎自治体では、常時設置できるような仕組みになっている

ます。これ、都道府県単位じゃないとできないんですよ。市町村単位で、温泉街とか商店街とか、一定のまとまりがある地域で、有権者が参画する人の3分の2の同意があれば条例を設置して、全体に対して一定の考え方をもって負担金を納めていただくことができるような制度です。その負担金の考え方も、一律、一事業者あたり、宿泊税と同じように宿泊者が泊まったごとに500円、100円という形で徴収することができる仕組みになってまして、なので、宿泊税に比較的近い制度です。

アメリカの場合だと、その宿泊税がベースにあって、宿泊税って、どうしても行政の税として入ってくるので、どうしても色が最後まで付けきれず、一般財源化するという恐れがどうしてもあるので、それとは別にTIDを設けて、これは完全に宿泊事業者の皆さん、もしくは観光関連の事業者の皆さんのために使うものとして、区分して使うための制度として、2階建てになっている。

ただ、これは、宿泊税とかでなくても、TIDだけ入れることもできるのではあるんですけども、そういう工夫をしながら観光地の財源を、色々なところで皆さん努力されているというものの1つです。

B 委員

ありがとうございました。いずれにしても、資金力がないと人材の確保ができないと思いますし、そういった継続的に専門的に計画的に関わっていく組織というものが必要であると理解させていただきました。

会長

どうもありがとうございました。皆さんにご意見いただきたいですけども、時間の関係で、また懇親会の方もございますので、そこでゆっくりとお話いただくということで。

出雲の経済界を代表して、商工会議所会頭がお越しですので、懇親会出られないそうですので、一言。前回も出られなかったのです。

C 委員

第1回を欠席いたしました。大変失礼いたしました。

本日、講師のお話を聞かせていただいて、自分が今取り組んでいる、出雲そばと美食の旅の会をどうしようかとすごい考えてしまいまして、会議自体のことから頭が離れるところがありますが、商工会議所の会頭になってからこうした業者の皆さんと色々なところで一緒にいることが増えました。そこで感じたのが、それぞれが、それぞれで、色々なことを取り組んでおられるなということを実感しているところです。

先ほど、A委員もおっしゃいましたが、それぞれが、それぞれに取り組んでいて、目的がみんな違うので、その目的に向かって取り組まれることは非常に大事だと思うんです。けれども、これだけ広がると、いろんなものが被りあって、長く続けてると、自分のところが1番だ、もっと予算くれみたいな話をしてしまうようになってきてますので、そうした意味でも、もっと寄せて、パッケージ化した方がもっとパワーが出るのであればそうい

う方向で進んでいった方がいいかなと感じたところです。

各商工団体の幹事さんというのは、もちろん自分のところの商売が1番ですので、それができるようにするにはどうしたらよいのか、というところでも、より多くの方にも来てもらって、どう満足して帰ってもらえるのかという視点で、一緒に取り組んでもらえるように進めていくことが、肝心かなと感じています。

本日、出てきた、DMOという組織ができて、縦割りばかりではなく、単独の目的だけではなく、ぜひパッケージ化して、取り組んでいけるような方向で進んでいったら、一緒になって協力しやすいのかなと思ったところです。以上です。

会長

大変ありがとうございました。C委員はご覧の通り本当に気さくで、我々と一緒にまちづくりをやっていただく、どうしても会頭という、少し近づきがたいのですけれども、非常にそういう意味では、出雲の将来が明るいという風に私が言うのは大変失礼な話だったと今感じております。

すみません。いろいろとご意見いただきたいんですけれども、次の資料2の説明がございますので、議事次第3の方に事務局の方からお願いします。

(3) 観光基本計画の全体像、課題のとりまとめ案について

事務局

(資料2について説明)

会長

どうもありがとうございました。そうしますと、今、基本計画の全体像につきまして、課題・まとめ案をご説明していただきました。

これにつきまして、どなたかご質問のご意見ございますでしょうか。どなたでも結構でございますが。

そうしますと、時間のばかり言って申し訳ございません。アドバイザー、なにかご意見があればお願いします。

アドバイザー

課題についてというところに、今現在、Izumo365という事業で、365日楽しんでいただけるコンテンツを造成しているところでございます。

そんな中で、いつも仕事をさせていただいて、私の方は土台作りと言いますか、まず市民をその気にさせる。そんなことをさせていただいています。

出雲を色々回らせていただいて、去年はこういうのいいのでは、という提案いただいたのですが、その時は正直誰かがすればいいんじゃないの、というそんな提案でした。

今年は、私がやりますという人が手を上げてくれ始めました。つまり、組織体制も必要ですが、最終的には暮らすような旅をしたいというのが旅行者の希望ですので、市民との

交流がないと、この事業は成立しません。

そんな中で私が考える課題は、これ関西で言う滋賀県なんそうですが、企業城下町という、色々な大手企業がいて、そこで安定した、雇用もあるので、あえて個人でリスクを持って商売しなくても良いのではないかという、そういう基盤が1つあります。

それからですね、横並び主義、これ悪口じゃないですが、自分が前に出るという文化、この地域には今一つない。それからもう1つは、女性が活躍するというのをまだ認めないところが正直ある。誰かが言うしかないと思って、あえて私が言いますが、従来のおもてなしというのは母性がすごい重要なことで、女性が考えたものの方が、割と世界中にどのように、受け入れられやすいです。

ですので、もっと女性や、それから若手の人が、事業承継も含めてですが、この街の将来を女性とか若手に引き継ぐという、そんなところ。これは性格と気質の問題がありますが、性格は変えられます。性格は行動を変えると人からみると変わったように見えます。気質はなかなか変えられない。

ここは正直、今、出雲、山陰地域の課題かなと思っております。

ですので、整備する母体は重要なんですけど、私は、組織を変えるよりも、まず意識を変えて欲しい。しかも、観光事業者さんは最終的には市民と一緒にやっていくという、それがこの観光地経営の本当の基盤です。

そこを、もう少し観光事業者さんも意識を変えてもらえたらいいですし、市民の人にも、これも私の仕事だという風に理解をしてもらいたいの。今、お願いしたいのは、市民にこういうことを説明する機会が欲しいです。

実際に進んでいきますが、それらの紹介で出雲らしい、出雲のプライドがコンテンツに込められたものが生まれつつあります。

そういうものですね、体制も大事なんですけど、そういうところをお願いしたい。

もう1つだけ、先ほど、村木さんに事例で出していた和歌山県の熊野古道の世界遺産登録は、私が手掛けました。当初、県民の誰も発心門王子なんて歩かないとされていました。でも、今20周年になって、皆が口にするのは、わが町の誇りですと言われます。

だから、世界遺産のために、わが町遺産になるために時間がかかるわけです。でも、それはやっていくしかない。説得をしつつ、トライ・アンド・エラーを繰り返していくしかない。それが実態です。

ですので、市民を巻き込むことと、それから少し気質、性格をですね、見直していただいて、これを市民に広めていただきたいというのが、私のお願いといえますか意見でございます。よろしくお願いします。

会長

ありがとうございました。まだまだ言いたいことたくさんあると思います。そういったものは、また事務局の方へ直接いただいて結構だと思います。

ご協力ありがとうございました。事務局にマイクをお返しいたします。

事務局

会長、委員のみなさまありがとうございました。